

浴道で、おじさんから、アメ玉をもらい、「あと、ニキ
ロダの、励ましを受けて。臨海線を後にし
左折すると、夢にまで見た、大望のゴルフ場
えて来た。ありたけの力をかりしぼり、陸橋
下をくぐる。「帰って来たぞ」よくぞここまで
足がもちこたえてくれた。感激のゴルフ。
思わず、両手を突き上げた。

なんとしんどかったことか、もう二度と走らな
いぞ、途中のことなど、口では云い表わせない。
苦勞と苦悶と戦い。四時間に渡るドラ
マであった。

ところが、ゴールの瞬間には、この苦しみが
りのかたまりが、ひあーと、どこかへ飛んで行
ってしまっていた。なんとさわやかなこと……
走り終えて、心は充実感で満ちあふれて
来た。



六甲縦走に参加して

岡田 登助

千島判、篠山、そして今回の六甲金山縦走と三
週間のペースの大念参加も、不況、スウェーデン、ジャン
とならぬ、いざ出発である。走ろう会からの参加者
と、大阪駅で三時に待ち合せになっていたが、仕事
の為に一人遅れて直接大和屋旅館へ。昼から
降り出した雨も旅館につくころには、本降りとな

って、今回だけはどう見ても最悪のコンディションと
なりそうなき様子である。

旅館では先にいった逓会長、栗野原さん、牧野
先生、宮下さんにむかえてもらい、早速、食
事に出かけ、次で明日の食料を買い込む。し
の後、なんと一杯飲みに出かける。これが何より
も楽しみであり、又楽しい時である。これがあ
から、走るのがやめられぬ。走り前かがりこれ
ある。しかし、感連いしな下り。決して大酒飲
みではありませぬ。

旅館に戻り、早速、明日の準備にかかると、や
たら食物が多くて、栗野原さんに遠足でも行
くのと違ふかと冷かすれながら、バックに詰め込む。
ちみみに詰め込んだ物、あんぱんニケ、おにぎ
り大一つ、バナナ二本、大福もちニケ、干し芋少
々、あめ玉、ホカリ、ウーロン茶など。
朝は四時半すぎに起きてみると、あんなに降
っていた雨もあがり、どうやら最悪のコンディション
だけは免れた称す。

そして七時の笛の合図に、スタート。ところがい
なり急な階段が続く。おまけに狭いとこ。そ
の為に混雑して思う様に進めない。しかもた
先は長い、自己分に言い聞かせ登る。頂上か
らはどうにか思う様に走ることが出来たが、い
つものまにか、回地内を走る。すると、けるか、前方の
山に向こうには人並か、つながら登っているのが
見えた。こゝから、こんな光景を何回見れば良いの
か考え、無事に完走できるか心配になる。
通常であれば、下りけいめれば、ほっとするが

本根だが、今回だけは又登らなければい
けないと思うだけで気が重くなるばかり。

目標は六甲頂上である。頂上まで行けば
後は登りは少ないはずだと思いい、カンバル
カンバル。しかし、途中、何回か道が分ら
なくなる。後から来る人に聞
く。だが、私も初めてで分りませぬ。返事
四く五人まで、知って、人かや、てきて、再び
走り出すと言った調子であった。それども、ア
スファルトを甲二、一九五キロ走することを思
楽な気がした。それは登りは来けるし、地道
の為に足への負担も少ない。子供のころ、
良く野山を走り回っていたことを思い出さ
ながら走ることが出来たから、むしろ、そ
れども、五キロは長かった。最後は必死に
て、まともに走れず、ゴール手前の急な下り
坂では、後向きに下り、始末である。

そして、無事ゴルフのテニスを切ったが、一
時十分ごろであった。

長い長いレズではあったが、やたと云う満
足感で本場にレズに参加して良かったと思
ました。そして今回参加した全員が無事
完走することができ、満足、満足。
後は六甲金山縦走タイムトライアル談話を
あてに、天王寺でビールで祝杯をあげる。
これがやはり一番である。
次はまたい豆島でおいしいビールを飲む
ことを楽しみにしています。

ホップステップアンド大きくジャンプ

関西最大のウルトラレク六甲金山縦走タイムトライアルを走ろう会より五名制す

(栗野原、牧野、岡田、宮下各々として速)

天気予報によれば、土曜日も、日曜日も、午前曇り後雨とある。三月二日、日曜日、タイムトライアルとしては最悪だ。主催者は雨天決行と強気である。私の一番心配するところは装備と慎重なる行動である。これに参加する人、遠く山梨県や宮城、神奈川県、香川県から足に自信のある人が参加している。神戸毎日登山や大阪金剛錬成会がいうに及びず、日本の強歩ランナーや登山家が参加している。もちろん走ろう会もであるが、そして、毎年制限時間が厳しくなっている。この大会に一回や二回の参加が「初めてもらっては困ります」のであり、私はこれまでの幾つかの事故例も知っております。そして、慎重なる行動と装備を望みました。「備えあれば憂いなし」。

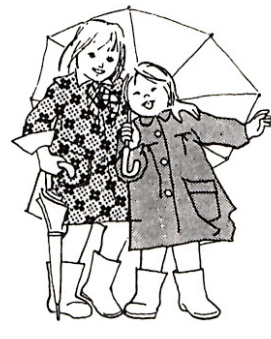
ともども六甲全縦とは、六甲山系南北ハキ口東西五五キロ、六甲、磨耶、再度、菟取、高取、須磨の山塊を五二キロ、十時間三分の制限時間内に走らなくてはならない。並大抵ではない。全縦も磨耶山から六甲最高峰まで行けばあとは惰性で完走出来るといふが、救急車や乗用車の通行できる区間は五三

キロのうち二キロぐういで、後は小道で右が一、体に故障したとき、どうして市街地へ出るこゝが出来たのか、それが心配である。さて、岸和田フルマソンも完走し、篠山フルマソンも完走した。ホップ、ステップ、後はジャンプである。牧野先生の言われるジャンプでなく、ジャンプになら可能性が多分にある。三つは挑戦、カンバのみ。三十日土曜日午後三時大阪駅集合、雨。須磨、宿舎に着く。雨々、宮下さんしより「明日は晴れるよ」。これは希望的、楽観的視測というのだというか、「まだ、いうている」と言う様、何度か「明日は晴れるよ」を口にする。

午前七時スタートする。天候は曇、どうか雨が降らないうでほしい。カンバ、カンバ。私は全縦参加四回目である。そして六甲山系の山々を何度か登山しておりすが、会員の皆さんがどうしているのか、順調よく山々をこなしてゴールへ向かっているのかしらと思つ。宮下さんの言う通り、雨が降らない。「しめしめ」どうせも制限時間内に入り、完走するのだ。大きくジャンプするのだと自分に言い聞かせ頑張る。しかし根も盡きた。あんなに下りについて練習を行っていたのに思つように走れない。剛気不屈、鉄人の男も参ったなあ。もうどうなつてもいい。間もなくゴールだ。惰性で走る。その時、人が見えた。あ、牧野先生だ。私を気遣い、迎えに来て下さつた。感謝する。ゴールする。私は泣かない。タイムは思う程短縮ならなかつた。残念、残念である。そして今回用事があり、参加出来なかつた真鍋さんと約束した。ゴールして「せんざい」三杯食べたかたこれか心残りである。かくして六甲全縦タイムトライアルは終る。来年は頑張るよ。なんとか初参加の岡田さん、宮下さん、鷺異の六時間台。そして初参加の牧野先生も栗野原さんと七時間台、そして八時間台にてゴールであった。岸和田、篠山のフルマソンについて六甲全縦走タイムトライアルも制す。ホップ、ステップアンドジャンプする。今年参加出来なかつた会員の皆様、六甲全縦はロマンチック街道、根性の血が湧く。友情の花が咲く。挑戦して見てはどうか。六甲の山々は皆様を待っております。

は泣かない。タイムは思う程短縮ならなかつた。残念、残念である。そして今回用事があり、参加出来なかつた真鍋さんと約束した。ゴールして「せんざい」三杯食べたかたこれか心残りである。かくして六甲全縦タイムトライアルは終る。来年は頑張るよ。なんとか初参加の岡田さん、宮下さん、鷺異の六時間台。そして初参加の牧野先生も栗野原さんと七時間台、そして八時間台にてゴールであった。岸和田、篠山のフルマソンについて六甲全縦走タイムトライアルも制す。ホップ、ステップアンドジャンプする。今年参加出来なかつた会員の皆様、六甲全縦はロマンチック街道、根性の血が湧く。友情の花が咲く。挑戦して見てはどうか。六甲の山々は皆様を待っております。

遠健三



お知らせ

一、例会日 胃ニテ八日 午前九時

一、集會場所 新家種河神社

一、コース 今回はA組、B組の二班に分れて
走りたいと思います。A組にて走るか、
B組にて走るか、その日の体調にて
決めて下さい。

イ、A組 高倉林道入口より左折してみ
かん畑コース

ロ、B組 畦の谷往復コース

ハ、A組、B組ともランニング終ってから
サーキット、トレーニングとインターバル
トレーニングを少し行ないます。

一、案件 イ、小豆島マラソン参加方法について
ロ、昨年と同じ合宿(加太)トレーニング
ングについて

一、備考 五月十二日(日)例会日午前九時
場所 新家種河神社



30回記念から歩き大会

開催される(胃ニテ日)

牧野先生参加者90人中オト他

世の中、さもなくば、大会、世俗のソロバン
にかゝらぬ、バカらしい大会に参加する者の
気がしれん。こんな大会、最たるものが、かの
六甲全縦として、こゝから歩き大会ではな
らうかと思ひます。

から歩き大会とは、徒と勝が同音異義語
であつて長い距離を飲まない、食べないで歩く
ということ、京都、大阪間、おきなを歩く大
会です。この頃、前と比べて参加費が高くな
るは、入賞しても良い賞金が無い、それで、以
前のように足の速者な「健脚家」の参加が
少ないといわれるが、どうしてどうして。今また
ウォーキングが盛んで、一時参加者が少ない
たこともあつたが、最近参加者が多く、また
足の速者の人の参加が目立っております。
この中、あつて八位、たししたもので、途中
もうあかんで、リタイヤする人もあり、足参
加者一〇〇〇人以上です。

この大会の目的は健康と体力の向上、心
身の鍛練、飢え、渴き、疲労の体験、自己
への挑戦とあります。体力、忍耐力、判断力
実行力、遂行の苦勞と喜びの体験するべ
からしい、しかしてこの大会は毎年、春秋開
催され、今回で30回目であります。

生真面目で純粋で、まっぴりおかしな
ことがある大会です。ですから最初バカ
らしい、こんな大会に参加する者の気が
しれんと、述べよした、何というか参加
する人にとっては、価値(徒)ある大会です。
堂々八位にて完歩されました牧野
先生に敬意と心からおめでとうとお祝
いの言葉を頂きます。会員の皆様は
お知らせいたします。

老兵、下氏記す

